

河北新報社

〒980-8660
仙台市青葉区五橋1-2-28
www.kahoku.co.jp

「東」は、未来



総合案内 022(211)1111
読者相談室 (211)1447

ご購入申し込みは
オオク ミナヨム
0120-09-3746

被災地と人口減

縮小の先へ

地域の足① 鉄道

地域の足② BRT

防潮堤

水道

土地区画整理

増えぬ利用客 減便懸念

朝7時半。気仙沼市のJR気仙沼線バス高速輸送システム(BRT)の駅「不動の沢」に、気仙沼高生が次々と降り立つ。

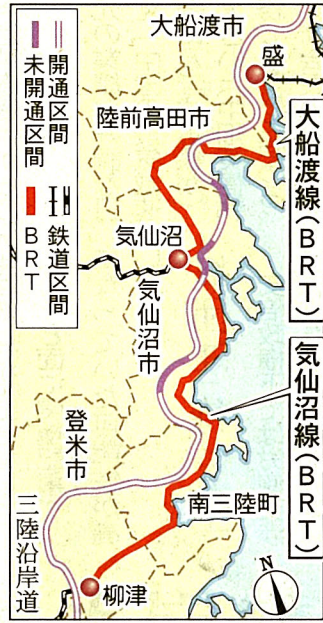
同市本吉町の1年三浦甲斐さん(16)は毎朝、約40分間バスに揺られ、通っている。東日本大震災時は小学2年生。鉄道だった気仙沼線に乗ったことはなく、「BRTの不便さは感じない」と話す。

朝7時半。気仙沼市のJR気仙沼線バス高速輸送システム(BRT)の駅「不動の沢」に、気仙沼高生が次々と降り立つ。

同市本吉町の1年三浦甲斐さん(16)は毎朝、約40分間バスに揺られ、通っている。東日本大震災時は小学2年生。鉄道だった気仙沼線に乗ったことはなく、「BRTの不便さは感じない」と話す。

高校生に不可欠

同校生徒の約4分の1に当たる198人がBRTで通学する。本数は鉄道時代の約3倍に増え、高校生にとって欠かせない交通機関



高校生の足として不可欠なBRTだが、一般客の利用は伸び悩み＝8日午前7時30分ごろ、気仙沼市四反田の不動の沢駅

所にある。1日の平均利用客は15人程度。同駅への運行を「実証運行」と位置付けるJRは「利用客数を踏まえて、今後の方針を決める」と否定しない。

気仙沼市は震災後、人口の計42市町村を対象にしたアンケートで、5割近い首長が人口減対策として「交流人口の拡大」を挙げた。鉄道を失った地域は大きなハンディを抱える。

「乗り遅れたようで寂しい」。陸前高田市観光物産協会のスタッフが漏らす。23日に開業を控えた第三セクターの三陸鉄道リアス線。宮古―釜石間(55・4キ)がJRから移管され、全国の三セクで最長となる久慈―盛(大船渡市)間163キが1本のルールでつながる。

陸前高田市内を走るJR大船渡線は津波で被災後、BRTで復旧された。市は岩手県沿岸部で唯一、鉄道が走らない市町村になる。

JR東日本は4～6月の3カ月間、岩手県内を重点販売地域に指定した。三鉄に直通列車を走らせるほか、県内各地でSLやリゾート列車を臨時運行するがBRT区間に計画はない。

市の担当者は「BRTは域内交通としては定着したが、首都圏の人々の認知度は低い。利用しづらいイメージではないか」と課題を指摘する。

同じように鉄道がない宮城県南三陸町の南三陸ホテル観洋が今年1月、社員旅行の一環で三陸鉄道沿線の盛り上がりを探った。

おかみの阿部憲子さん(56)は「鉄道があるかないかでは人の流れが違った。大量輸送できる鉄道を失った影響はやはり大きい」と指摘した。